

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第10回理事会 開催日：1月17日。出席者：八木副会長，他 31 名。

(1) 定款中一部変更の件

定款中会費の件につき一部変更する案が承認され，今春の総会に諮ることになった。

(2) 名誉会員推挙の件

前会長佐野幸吉君を名誉会員に推挙することを承認した。

(3) 1969年度学術関係国際会議派遣候補者（学術会議）推薦の件

国際自動制御連合 IFAC 磯部孝君を推薦することを決定した。

(4) 薄鋼板成形技術研究会公開研究会協賛の件

日時 44年3月27日（木）9:00～

場所 大和証券ホール

「プレス式形における変形と破断ひずみ」発表4件，関連討論9件

パネル討論テーマ「自動車生産と薄鋼板」

協賛することに決定した。

企 画 委 員 会

第10回委員会 開催日：1月13日。出席者：吉崎委員長，他 8 名。

1. 定款中一部変更（案）の件

最近会誌印刷費，用紙代はじめその他諸物価が騰貴しまた事業推進に伴う諸経費も著しく増大しており，正会員の入会金，会費および学生会員会費の値上げ案が出され，それに伴う定款の変更が企画委員会として承認された。

2. 昭和 44 年度予算案の件

前回一次査定予算の承認がなされていたが，その後，本年5月開催の日ソシンポジウム関係の経費を一般予算に繰り入れたため前回の予算案より収支とも 200 万円多くなった旨の報告がなされ承認された。

研 究 委 員 会

第3回教育問題小委員会 開催日：1月28日。出席者：三本木委員長，他 9 名。

1970年に開催を予定されている鉄鋼技術国際会議において，教育問題をどのように取り扱うかについて，討議された結果，サブテーマとして，次の項目をとり上げることにした。

(1) 大学における冶金教育の状況

(2) 大学における工学教育のカリキュラムの認定方法

(3) 学協会における教育活動の現状および方針

また教育問題に関する論文の依頼先などについて討議が行なわれたが，最終的には国際会議の実行委員会で決定されることになった。

編 集 委 員 会

第6回運営委員会 開催日：1月17日。出席者：荒木委員長，他 14 名。

1. 依論文賞候補論文および選考小委員会設置について

各候補論文を各専門家に審査していただき，その結果に基づいて決めることになり提出の候補論文一覧表に基づき審査小委員を選定した。

第11回欧文会誌分科会 開催日：1月13日。出席者：橋口主査，他 14 名。

1. 5 件の論文について審査報告がなされた。

2. 1 件の論文の投稿を勧誘することが決まった。

3. 8 巻 6 号の講評がなされ，目次および論文の著者名の活字について9巻よりの変更が決められた。

第9回講演大会分科会（和文会誌分科会合同）

開催日：1月29日。出席者：草川主査，他 26 名。

1. 第77回講演大会の講演概要査読およびプログラム編成，座長選定を行ない次のようになった。

講演数 305 件

一般討論講演数 21 件

会場数 8 会場

第10回出版分科会 開催日：1月22日。出席者：佐藤主査，他 14 名。

1. 「鋼の熱処理」について

用語統一などにつき検討

2. 「特殊鋼部会報告書」について

査読結果の報告があり，刊行可となった。

3. 「鉄鋼製造法」について

冒頭編目次(案)を検討した。

共同研究会設備技術部会

第3回圧延設備分科会 開催日：1月29，30日。出席者：豊田主査，他約 80 名。

今回は八幡製鉄(株)八幡製鉄所にて分科会を行なった。

議題としては下記のごとくである。

1. 厚板精整設備関係について

(矯正機，スタンパー，マーキング，冷却床，熱間長さ計と切断，剪断機)。

2. ダウンコイラーについて

今回は鉄鋼側から上記議題につきメーカー側に問題点を示し次回分科会にてメーカー側の意見発表を行なうこととした。

なお工場見学は「厚板工場(八幡)」「熱延工場(戸畑)」にて行なわれた。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第5回 WG 4 分科会 開催日：1月14日。出席者：鈴木主査，他 15 名。

1. 第10回 ISO/TC17/WG4 国際会議出席報告

高周波焼入れ鋼およびパネ鋼関係を酒井(大同)今村(神鋼)の両氏より、ステンレス関係は吉武氏(日治)より報告があつた。

2. ASTM の規格制定に関する調査報告

三佐尾氏(日本鋼管)より米国の ISO に対する態度、ASTMにおける Spec. の作成改廃の手續などの調査報告が行なわれた。

3. SUP11 H パンドについて

ISO に提出した SUP11 の H パンド値につき事後承認を行なつた。

4. 第11回 ISO/TC17/WG4 国際会議の準備について

第11回会合は5月に行なう予定になつていたので早急に準備しなければならないが、まだ原案が来ていないので、原案が来次第準備にかかることとした。

データーシート部会

第3回部会 開催日: 1月24日. 出席者: 田中部会長 他 15 名.

1. 質量効果を考慮した SC 材の機械的性質

SC 材データーシート作成小委員会で作成した報告書が提出され一部を修正した後広く衆知していただくため会誌に発表することとした。

2. 伸び値と試験片寸法効果分科会報告

第1回会合を行ない各社手持ちデータを整理し次回会合にもちより検討することとしたとの報告があつた。

3. 今後の部会運営方針

一応質量効果を考慮した SC 材の機械的性質はもう終わるので今後部会としてとり上げていくテーマを他の部会、分科会の要望も聞いて次回(4月)に検討することとした。

.....

第3回 JIS PC 鋼棒鋼線原案分科会 開催日: 1月30日. 出席者: 富田主査代理, 他 36 名.

(1) JIS PC 鋼棒規格案と JIS PC 鋼線・鋼より線規格案はそれぞれ小委員会で検討され、最終案が分科会に提出された。分科会においては、両規格案は一部語句の訂正がなされたが異議なく承認された。

(2) 両規格を PC 鋼棒鋼線として1つの規格として統合してはどうかとの提案に対しては、1つにまとめることはむずかしく、合本にしてほしい旨工技院に申し入れられることにした。

(3) 今後の予定

分科会で承認された規格案は、鉄鋼協会標準化委員会にかけ、3月上旬に工技院に答申することになつている。

なお本分科会の討議の中で問題となり、今後の問題として残された特殊な品質の鋼線(130 kg/mm²級のものなど)については、鉄鋼協会として JIS 化の方向で取り上げてゆくことになつた。

第4回 JIS 中空鋼原案分科会 開催日: 1月30日. 出席者: 高岡主査, 他 12 名.

前回までの各委員の意見をもとに1月13日に幹事会を開き、改正原案素案を作成した旨三菱製鋼より説明があ

り、素案をもとに最終原案を作成した。

名称、鋼種、鋼材のかたさ、鋼材の形状、孔径の許容差、偏心量などについて全面的に手を加えた。

資 料 委 員 会

第53回委員会 開催日: 1月31日. 出席者: 草川委員長, 他 18 名.

(1) 新委員として、加藤(早大)、鈴木(金材研)、染野(東工大)の3氏の紹介があつた。

(2) Translation BISI の昭和44年度購入に当たり利用状況などを話し合つた。

(3) 日本語の論文の英訳依頼がイギリス鉄鋼協会より著者になされる場合の条件について、当協会とイギリス鉄鋼協会との申し合わせにつき報告があり、いろいろ話し合つた。

(4) イギリス鉄鋼協会の新しい情報活動である(Selective Dissemination of Information) SDI の購読者紹介の依頼があつたが「鉄と鋼」の会告(第55年4号)に掲載し宣伝することになった。希望者はイギリス鉄鋼協会に直接申しこむことにした。当協会で購入するかどうかは、次回検討することにした。

(5) チェコスロバキアの雑誌“Transactions of the Institute of Mining and Metallurgy in Ostrava”と“Transaction ISIJ”と交換することにした。

鉄鋼基礎共同研究会

第10回運営委員会 開催日: 1月20日. 出席者: 三島委員長, 他 10 名.

1. 昭和44年度基共研予算案

事務局案を検討し次のように決定した。

総予算 4,749,900 円

(43年度より約50万円の増加)

支出は一般運営費 1,628,900 円

分科会運営費 461,000 円

特別研究費 2,660,000 円

の予定である。

2. 新たに強度と靱性部会(部会長 荒木透東大教授)が設立され活動を開始しはじめた。

溶 鋼 溶 滓 部 会

第1回第1分科会 開催日: 12月7日. 出席者: 齊藤部会長, 不破主査, 他 17 名.

“高温における溶融体の熱測定”のテーマで研究発表、討論を行なつた。

1. 高温微少熱量計の試作 北大 丹羽, ○横川

2. 高温熱量計の試作と予備実験

東北大 不破, 万谷, ○井口, 下地

3. 高温における金属の迅速熱量測定法

八幡技研 山口

4. 断熱型熱量計による溶融合金系の混合熱測定

について 東北大 矢沢, 板垣

5. カロリメトリーによる融体の熱力学

京大 大石, 森山, 阪大 幸塚

微 量 元 素 部 会

第3回V分科会 開催日: 1月23日. 出席者: 久保田幹事, 他 14 名.

1. 研究経過報告

各委員より“鋼中Vの影響に関する研究”の研究経過報告が行なわれた.

2. 昭和44年度鉄鋼協会特別研究費による研究計画の検討

100 kg 鋼塊 6 本を神戸製鋼にて溶製し, 共同研究会分析部会と提携して, V炭・窒化物の分離定量法, 析出物の形態および量と機械的性質の関係を調べる事が決まった.

強 度 と 靱 性 部 会

第1回部会 開催日: 1月10日. 出席者: 荒木部会長, 他, 6 名.

荒木部会長より設立主旨の説明が行なわれ続いて具体的活動方針の検討が行なわれ下記事項が決定した.

活動の内容は

初年度…テーマを「鉄鋼の強度と靱性を微視的観点から追求する」とし従来の研究状況の調査を行なう. 文部省科学研究費のうち総合研究費(B)を申請する.

2年度以後…文部省科学研究費のうち特定研究を申請する. 却下された場合には鉄鋼協会特別研究費を申請する.

5年間で研究を終了し, 解散する.

続いて総合研究の計画調書の検討を行なった.

明治百年記念叙勲者

明治百年記念第3回外国人叙勲者が2月11日付で発令されました. 本会関係では次の通りです.

勲二等瑞宝章

ヘレマン・シェンク (独鉄鋼協会会長)

新 入 会 員 氏 名

(昭和43年12月1日~31日)

維 持 会 員

三和特殊製鋼(株)

KYC光洋機械工業(株)

日商岩井(株)

正 会 員

渋谷 敦義 住友金属工業(株)

中技研

田村 洋一

浜端 進

藤岡 靖英

村山順一郎

渡辺 雅男

石橋 弘章

小山 朝良

橋尾 守規

藤原 昭夫

山崎 善雄

阪根 武良

阿草 一男

稲谷 稔宏

服部 光孝

倉橋 速生

谷口 良一

水田 有

内山 英二

中野 利雄

新田 幸夫

長谷川昭夫

後藤 俊助

鎌田 満雄

本城 修

楠岡宣太郎

渡瀬 保夫

福田 光弘

西原 静夫

住友金属工業(株)鋼管

川崎製鉄(株)技研

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

日本製鋼所 室蘭

〃 〃

〃 〃

〃 〃

富士製鉄(株)中研

〃 釜石

〃 広畑

(株)神戸製鋼所 中研

〃 〃

〃 神戸

山陽特殊製鋼(株)

内藤 道久

河井 良彦

田中礼治郎

藤田 照夫

森坂 和美

田中 清見

佐納 次郎

布施木得雄

宮地 昭夫

杉村 公男

棟方 雪郎

満仁 賢一

李 海 洙

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃